

## <調査の概要>

---

## 調査の概要

### (1) 調査の目的

日進市では、「第5次日進市総合計画（計画期間：平成23年度～平成32年度）」に基づき、将来都市像である「いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市」の実現に向けてまちづくりを進めています。

このアンケート調査は、計画期間の後半を迎えるにあたり、本計画における各施策の進捗状況を確認するとともに、市民の皆さまの多様な市民ニーズを把握するために実施しました。

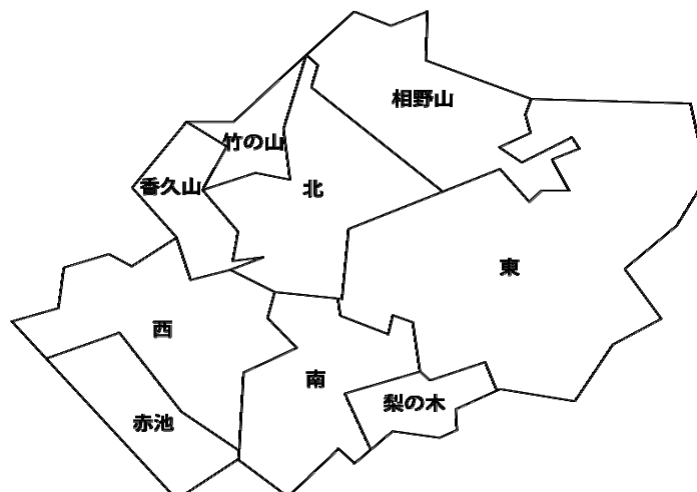
### (2) 調査の概要

本調査の概要は次に示すとおりです。

- ・調査対象：日進市在住の18歳以上の方（平成28年8月1日現在）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・調査時期：平成28年8月
- ・配布数：3,000票
- ・回収数：1,289票
- ・有効回収数：1,284票
- ・有効回収率：42.8%
- ・小学校区別回収状況

小学校区	配布数(票)	有効回収数(票)	有効回収率(%)
西小学校区	451	152	33.7
東小学校区	379	131	34.6
北小学校区	342	148	43.3
南小学校区	508	190	37.4
相野山小学校区	178	87	48.9
香久山小学校区	408	135	33.1
梨の木小学校区	268	120	44.8
赤池小学校区	319	133	41.7
竹の山小学校区	147	52	35.4
全体	3,000	1,284 (回答なし・校区不明136件含む)	42.8

【小学校区区分図】



(3) 図表の見方

- 図表中の構成比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になりません。
- 一部の図表については、クロス集計上の表側の「回答なし」は省略しています。
- 見出しや文章中、回答の表記を、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。
- グラフ中の「0.0」は省略しています。

(4) 標本誤差

市民意識調査では、調査対象を無作為に抽出して調査をします。どの対象が選ばれるかは偶然によって左右されます。このため、標本結果は必ずしも母集団の値、つまり真の値とは一致せず、何らかの差があります。このように調査対象の一部を選定することによって起こる、真の値と調査結果との差を「標本誤差」といいます。

なお、標本誤差は次の式によって得られます。

・標本誤差の算定式

$\text{標本誤差} \quad \sigma = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$	P: 回答の比率(%)	n: 有効回収数
--------------------------------------------------------------	-------------	----------

次の表は、上式にnとPの値を代入して標本誤差を求め、作成したものです。

・標本誤差

	有効回収数 (件)	回答の比率(%)									
		5% (95%)	10% (90%)	15% (80%)	20% (80%)	25% (75%)	30% (70%)	35% (65%)	40% (60%)	45% (55%)	50% (50%)
対象者	1,284	1.2	1.7	2.0	2.2	2.4	2.6	2.7	2.7	2.8	2.8